

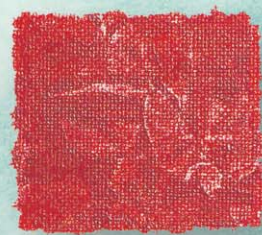
道
守

みちもり

MICHIMORI
TSUSHIN

通信

vol.34 春号



自転車が創る新たな道路整備について

みちづくし in みやざき 2017

地域と連携。次世代へ繋ぐ

道の駅×日本風景街道×道守シンポジウム

語ろうみんなで!「三つの輪」

新しい道路のあり方を模索中

古代から、道は人々の共有財産であった。力を合わせ道普請し、守ってきた。道は街を作り、産業を興し、文化を運び、人々を結びつけた。つい、この間まで、子どもたちがキャッチボールし、縄跳びなどで、明るい歓声が響いていた。お年寄りらは、縁台で将棋をさし、ほうきで道を掃き、水を撒くお母さんの姿もあった。そんな「日本の原風景」は何処へ行ったのだろうか。

確かに、高速道路やバイパスなど、道は整備され、日本の高度経済成長を支え、豊かな暮らしをもたらした。しかし、多発する事故、渋滞、大気汚染、騒音。何より、車優先社会は、人々の心を道から遠ざけてしまった。自宅前のごみや雑草さえ知らん顔。それどころか、空き缶のポイ捨て、家庭ごみの投げ捨てが日常的な風景になってしまった。

そんな現状に、心を痛め、清掃や花壇作り、植樹に取り組む人々が増えていく。行政まかせから、「道はみんなの財産」という意識と行動。新しい「公」への動きが芽を出しているのだ。行政と住民が手を携え「協働」で道を守るという新しい意識の潮流。そこから生まれた九州各地の活動が、合流し、大きな流れになってゆく。「道守九州会議」の誕生だ。

道守。その由来は遠く万葉の昔にさかのぼる。道を管理し、守り、旅人の飢えと渴きを癒す果樹を沿道に植えたという。現代の道守は住民と行政が協働し「道と人の新しい縁」を紡ぐ。

さあ、新しい道に一步踏み出そう。



玄界灘風景街道（虹の松原遠景）

CONTENTS

01 巻頭インタビュー

道守は美化、青少年育成に貢献
地域づくりに不可欠の活動です
中尾昌弘（大牟田市長）

02 自転車が創る新たな道路整備について

04 みちづくし in みやざき2017
地域と連携。次世代へ繋ぐ

08 わたしの好きな道
久留米市の顔となる花と緑豊かな道
～国道209号、国道264号～
原口 与三吉

09 私たちの道守活動

12 道の駅×日本風景街道×道守シンポジウム
語ろうみんなで！「三つの輪」

14 新しい道路のあり方を模索中

16 海外道事情
ロサンゼルス、パリ、道安立 清史

17 道守人物伝・道守たちのトピックス・横顔・編集後記

表紙画：久富 正美

1935年福岡県生まれ。「小さい旗」同人。グループ「五架会」会員。

巻頭 インタビュー

MASAHIRO NAKAO 中尾昌弘

（大牟田市長）

—— 道守九州会議が発足して14年、この秋、佐賀市で「みちづくし大会」が開催されます。大牟田市では平成25年から道路清掃や花壇づくり、大牟田駅周辺の景観向上に市民をはじめ高校生や子供たちと道守活動を実施しています。5年間続けています私たちの活動について、市長はどのような評価をされていますか。

中尾市長 おおむた花街道プロジェクトをはじめとする道路植栽帯の花苗の植付け及び清掃活動により、本市の緑豊かで美しいまちづくりに貢献して頂いています。

市長就任時より、まちづくりの柱として、「子供を産み育てたいと思えるような環境づくり」等を掲げ、「誰もが住みやすく、あらゆる世代が成長できるまちづくり」を進めています。



す。快適な環境整備に努めて頂いている道守活動はこうしたまちづくりにつながるものと期待しています。

また、今年で7回目を迎える「おおむた花街道プロジェクト」は、平成29年に国の認定を受けた中心市街地活性化基本計画における活性化事業のひとつであり、他の事業と合わせ、歩行者の減少や空き店舗が多く、疲弊している中心市街地の賑わい創出に貢献すると考えています。また、市民による花植えの取組みは、認知度が高まり、道守の方々の主要な活動エリアである国道208号以外の他の場所でも行われ、全体的な広がりを見せています。

道守活動のような公共施設の維持管理を支えて頂く取組みは、道路沿線に加え、街全体の美化や景観向上につながり、昨年3月に市制100周年を迎えた大牟田市が、今後さらに持続・発展していくための基盤になるものと考えています。

—— 市民と行政が協働する「新しい公」の考え方が今後の道守活動の展開には重要な力です。行政のトップとして行政の

姿勢や支援など道守活動を進めるための施策について、どうすれば住民やボランティアと協働が進むか、具体的な施策や計画などあればお話しただけませんか。

中尾市長 様々な課題を抱えているまちづくりを推進していくためには、我々行政と市民の皆様との連携、協力した取組みが大変重要です。

行政の立場からは積極的に働きかけ、そのような行動を通じて、市民の皆様から信頼を得ていくことが必要です。その際、市民の声をしっかりと聴き、それを施策に反映させる双方向のコミュニケーションを実践していくことが、市民のパートナーとしての役割を果たす第一歩になると考えています。併せて、市政に対する市民の関心を高めるため、情報を積極的に発信することも欠かすことができないものです。

本市では、まちづくり活動における維持管理への支援として、「まちの美緑花（みどりか）ボランティア制度（みどりか）ボランティア」による花苗等の支給や、「ゴミの散乱防止事業」でのクリーンキャンペーン等を行っています。

教育面では、全ての市立学校において、ESD（持続可能な開発のための教育）を推進していますが、大正小学校では、ESDの一環として、「こども花壇プロジェクト」にて実施しています。

今後も積極的な働きかけ、情報発信と施策を効果的に組み合わせ、市民との協働に努めていきます。

民との協働に努めていきます。

—— 大牟田市は2015年7月に三池炭鉱 宮原坑・三池炭鉱専用鉄道敷跡・三池港が明治日本の産業革命遺産として世界遺産に登録された観光客も増大し、大牟田駅周辺が賑わいを増してきました。一方で、高齢化によって、新リダーの不足など公民館活動は課題を多く抱えています。道守活動など市民参加型のまちづくりに取り組んでお伺いいたします。

中尾市長 大牟田市は、人口減少および少子高齢化により、平成30年3月時点の人口は、11.6万人になっていきます。本市では、人口ビジョンを発表しており、そのままにしておくとうため、人口を増やしていく様々な取組みを行い、それでも2060年で7.5万人となる見通しをしています。そのような中、今後、税収が減り、それに伴い、道路の新設や維持管理等も含めた行政経費はさらに減少していくと考えられます。今後は、行政だけでなく対応には限界があり、市民の協力は必要不可欠です。

本市では、地域の担い手不足や高齢化が進み、互いに協力し、助け合うコミュニティ機能が低下しているため、それぞれの地域住民が、目指す方向性を共有し、自らの力で住みよいまちづくりに取り組むため、コミュニティ再生及び活性化の推進母体となる校区まちづくり協議会の設立を促すとともに、協議会運営や活動支援に向けて取り組んでいます。

道守は美化、青少年育成に貢献 地域づくりに不可欠の活動です

市民と行政がそれぞれの役割を分担し、互いに補完し合う「協働のまちづくり」が非常に重要です。

—— 道守活動について、今後はどのような活動にしたいと思われていますか。

中尾市長 道守活動は、本市の美化や景観向上のみならず、次世代を担う青少年育成、コミュニティの再構築、移住・定住促進を図る上でも必要な活動だと考えています。

関係者だけでなく、市民全員が道守おおむたの精神である「できる人が、できることから、できる時に、自分から」を持って活動していけば、「誰もが住みやすく、あらゆる世代が成長できるまちづくり」につながるため、今後も継続した活動を期待しています。

インタビュー：道守ふくおか会議
道守おおむたネットワーク 三原くみ子



プロフィール

昭和29年生まれ。京都大学理学部卒業。大牟田市役所保健福祉部長、企画総務部長、大牟田市副市長を経て、平成27年、大牟田市市長就任。

自転車が生み出す新たな道路整備について

1. 自転車活用推進法の施行

日本における自転車の保有台数は、自動車保有台数と同程度で増加し、特に近年では、スポーツ車、電動アシスト車等の販売が増加しています。この背景としては、健康志向の増大や交通費・ガソリン代の節約等移動コストの縮減、環境への配慮等、その利用ニーズが多様化している事が挙げられます。

一方、交通事故に関しては、交通事故死者数が



2. 自転車通行空間の整備

自転車関連事故の減少については、ここ10年間で約5割程度減少しているのに対して、自転車対歩行者の事故は約1割の減少にとどまっており、歩行者の安全確保のために、歩行者と分離された自転車通行空間の整備が



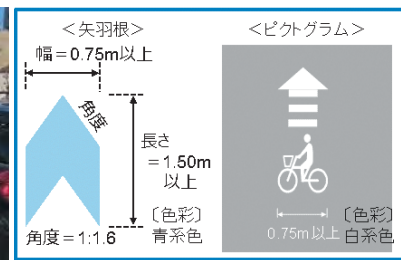
自転車専用通行帯



自転車道



矢羽根・ピクトグラム



減少傾向にある中、自転車乗車中の死者の占める割合は増加しており、自転車に係わる交通事故の削減が課題の一つになっております。このような状況から、自転車の活用を総合的に計画的に推進することを基本理念として、自転車活用推進法が制定（H29・5・1施行）されました。

行空間の整備が必要となります。

自転車は「車両」であり車道通行が原則であるため、車道に自転車を導き、そこで安全な通行空間を確保する必要があります。自転車専用の通行空間としては、「自転車道」や「自転車専用通行帯」がありますが、既存の道路の幅の中でこのよ



【宮崎市】思いやり1.5m運動

することは、「自転車は、車道が原則、歩道は例外」、「自転車は車道の左側を通行」等を周知・浸透させる上でも有効になります。

また、自転車通行空間等のハード対策だけでなく、自転車安全教育な

どの啓発活動によるソフト対策も各地で行われております。

3. サイクルツーリズム

近年ではロードバイクなどのスポーツ車の利用が増加しており、自転車を活用した各種イベント等数多く実施されております。特に世界的に有名な



【宮崎県】国道220号



【大分県】メイプル耶馬サイクリングロード



【熊本県】阿蘇サイクルツーリズム学校

環境と生活と観光に貢献！パリのレンタサイクル「ヴェリブ」

ヴェリブとは、フランス語の「ヴェロ」（自転車）と「レブ」（リール、自由な）とを合わせた造語で、24時間運営され、登録すれば自由に借りられて、町中を自由に走り回れる自転車という意味になります。パリ市が2007年7月から運営をはじめました。導入の目的はパリ市民の日常の移動手段としてでしたが、観光客も1日単位で利用登録（クレジットカードで登録する）をすれば買物やサイクリングに活用することもできるようになりました。しかも30分以内の利用なら無料です。自転車で行けば確実に30分以内で町中いたるところにヴェリブステーションがあります。ホテル近くで借りて、美術館や観光スポットで返せば、こんなに便利な手段はありません。パリもボルドーも中世からの古い街並みが残っていて、そこには自動車はいれませんが、自転車がとても便利なのです。パリ市はヴェリブの普及により、地球環境に優しい自転車の利用促進を目指しているとのこと。写真は、パリとボルドーで撮影した利用者が貸出・返却しているところです。

（九州大学大学院人間環境学研究院教授 安立清史）





みちづくし in みやざき2017 地域と連携。次世代へ繋ぐ

29年10月5日(木)から6日(金)の2日間、宮崎県を中心に開催された「道守九州会議交流会」が「みちづくし in みやざき2017」は九州各県から386名の道守、関係者が集い、開催されました。今回の交流会のテーマは「道守」と書いて「どういっく」。

九州会議が設立されて十数年、発足当初に登録された道守さんたちも高齢化しており、これまでの活動をどう地域の次世代に継承していくのか。資金面の課題や、地域や住民との連携に、どのように取り組んでいくのか、参加者みんなが知恵を出して、解決策を共有していくという趣旨でした。

「ねぎモン」こと根岸裕孝実行委員長のステイプ・ジョブスばりの主催者挨拶から始まり、道守九州会議代表世話人の樗木武九州大学名誉教授、共催者の戸数正宮崎市長、来賓の増田博行国土交通省九州地方整備局長、河野俊嗣宮崎県知事の挨拶に続き、今年度の九州道守会議功労者授賞式が執り行われました。

九州各県から7名の道守さんが受賞！



永年にわたり道守活動が続けられてきた方々に樗木代表世話人から功労賞の賞状と記念品が手渡されました。受賞者は次の通り。

写真左から門司港レトロ花の会(代表・北里幸良氏/福岡) 多久市そうじの会(副代表・瀬川武雄氏/佐賀) 道守長崎会議(理事・酒井修子氏/長崎) 大津町商工会女性部長(山本セツ氏/熊本) 道守大分会議(代表世話人・桑野和泉氏/大分) 宮崎空港ビル株式会社(社長・長濱保廣氏/宮崎) 荷馬車組合(会長・前田健治氏/鹿児島) の7名。功労賞の記念品として宮崎の名物「豚肥杉」で作られた「輪挿し」が贈られました。



第1分科会

道守の人材確保・育成

第1分科会は「道守の人材確保・育成について」というテーマで道守ふくおか会議の特定非営利活動法人はかた夢松原の会理事長磯谷慶子氏と道守かごしま会議の札元商工親睦会、西之園実秋氏が事例発表を行い、意見交換を展開しました。

若者を取り込むには「胃袋をつかむこと」「ボランティアの参加者に感動を与えること」等数々のキーワードが抽出する分科会となりました。

また活動を継続して行うことが大切であり、その活動を上手に情報発信していくことの大切さが新たな賛同者を生み出していく、地域の警察や消防署等にも声掛けをして輪が広がった事例など参考になるお話が次々と飛び交い、充実した内容でした。



第2分科会

道守活動の資金調達

第2分科会のテーマは「道守活動の資金調達について」。助成金や補助金に頼らず自立自走することを目指して活発な意見が交わされました。道守



大会宣言を読み上げるねぎモン

九州交流会も持ち回り二巡目、終盤に近づき、発足から14年を過ぎようとしています。それぞれの地域で頑張っている道守さんの活動は拡大していく中、新たな課題が生まれつつあります。

みちづくし in みやざき2017では、そのような現状を踏まえ、現状の取組みの事例発表を行い、そこから見えてくる課題を抽出し、その解決策を共有していくという目的で企画されました。

4つの分科会に分かれ、それぞれのテーマで熱心な議論が繰り広げられました。言いたいことを言いつけなすではなく、次に繋げていくためにどうすればいいのかを話し合い全体会でまとめさせていただきます。

全体会で各分科会の報告がされ、その内容を根岸実行委員長が「大会宣言(案/全文は06ページに掲載)」を提案し来場者の満場一致で採択されました。

4つの分科会で直面する課題を整理



約400名の道守関係者が宮崎市に集結！
熱い意見が交換されました

し in みやざき2017でした。行き届かない点も多々あったとは思いますが、参加していただいた方々、関係者の皆様、ご協賛いただいた皆様、この場を借りまして厚く御礼申し上げます。

道に係る人材を育て、これからの“道守”について熱く語り合う交流会を開催！

佐賀会議から多久市そうじの会の吉浦啓一郎氏、道守大分会議から国立大分工業高等専門学校教授亀野辰三氏による、それぞれの地域でどのような活動を実践しているのかという発表が行われました。



第3分科会

道守と地域の連携

「道守と地域の連携について」というテーマで第3分科会は開催されました。事例発表者は道守大分会議から特定非営利活動法人大分研究所の主任研究員加藤千明氏、道守みやざき会議から酒谷地区むらおこし推進協議会の日高茂信氏のお二人にご登壇いただきました。

地域をよくしようという想いはみんな持っているが、それだけでは得意なところを繋いでいく「連携」の必要性



第4分科会

まち歩きを通じた地域の活性化

が議論されました。その中でも「拠点」を持つている道の駅と、拠点を持っていない道守とがどう繋がっているのか、やれること、繋げられるところから取り組んでいくという動きを、先ずは始めてみることに大切だと提唱されました。学校とも連携し次世代に人材を承継していくことにも取り組むべきだという意見も出されました。

第4分科会は、現在いろんな地域で取り組みが広まりつつある「まち歩きを通じた地域の活性化について」というテーマで2人の道守さんがそれぞれの取組みを発表しました。道守長崎会議から特定非営利活動法人道守長崎の理事・牧圭子氏、道守くまもと会議から合同会社フットパス研究所の濱田孝正氏が活動を報告しました。



翌6日(金)は、早朝から3つのコースに分かれ現地体験学習会を開催しました。生憎の雨模様でしたが、それほど本降りにはならず大勢の方に参加いただきました。

Aコースは「植栽・県庁見学コース」という内容で、宮崎市の中心市街地の国道沿いの花壇に花の植栽を参加者全員で行いその後、ガイドボランティアによる宮崎県庁の見学会に参加しました。

Bコースは、宮崎市内でオープン・ガーデンを行っている個人宅の庭園を見学するツアーを実施。NPO法人サンフラワーみやざきオープンガーデンさんのご協力でフローランテ宮崎とオープンガーデンを行っている個人宅を訪問し「花と緑のまちづくり」を視察しました。

Cコースは「道の駅・三駅巡りコース」ということで、道の駅フェニックス、なんごう、酒谷の3つの道の駅を訪問。それぞれの道の駅の駅長さんに、道の駅と地域がどのように繋がりを図っているのか興味深いお話を伺うことができました。

お蔭様で昼前から晴天になったのは道守さんの日頃の行いでしょう(笑)。



Cコース
(道の駅・三駅巡りコース)



Bコース
(オープンガーデン見学コース)



Aコース
(植栽・県庁見学コース)

現地体験学習会を 3コースに分かれて開催!

『みちづくし in 佐賀 2018』 開催案内!

道守佐賀会議では、活動をしている私たち自身が、「楽しむ」ことが大切だと考え日々の活動に取り組んでいます。

「楽しい」をキーワードに、九州各県の皆様方を笑顔でお迎えでき、「みちづくし」を楽しんで頂くための準備を進めています。

日程

平成30年10月5日(金)、6日(土)の2日間

【1日目】

交流会場・交流集会場

グランデはがくれ (佐賀市天神2丁目1番36号)

【2日目】

現地体験学習

また、佐賀県では3月17日より「肥前さが幕末維新博覧会」がスタートし、街は賑わい活気づいています。現地体験学習にて明治から現代までの佐賀を堪能していただければと思っています。

どうぞ佐賀にいらしてください。

お待ちしております。



道守九州会議交流会 みちづくし in みやざき2017



交流集會も大盛況の うちに閉幕しました!

宮崎市民プラザで午後5時まで開催された交流会の後、午後6時半からは同じく中心市街地にあるMR Tミックのダイヤモンドホールに会場を移して「交流集會」を開催しました。「交流会」と「交流集會」という名前の紛らわしさが何とかならないのかなと思いますが、ここは前例踏襲なので悪しからず。

総勢三百名を超える参加者を出迎えたのは、素晴らしいジャズのボーカル。木下宮崎市長のあいさつに続き盛大なる宴が繰り広げられました。各県の道守さんたちによる「道守屋台」も大盛況!これに加え、宮崎県庁の有志による「宮崎縣廳焼酎俱樂部」が厳選した地元の焼酎の提供に加え、協賛を頂いた霧島酒造さんからは、宮崎でしか購入できない「霧島」の大盤振る舞い!みやざきならではのおもてなし炸裂の交流集會でした。その中でも参加者の目を惹いたのは宮崎公立大学生によるフラダンスのパフォーマンスでした。

各県の道守さんの紹介の後、来年度の開催地である道守佐賀会議へ、根岸実行委員長から大会旗の授与が行われました。ご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。また来年、佐賀の地でお会いしましょう!



次年度開催地の道守佐賀会議に
大会旗が手渡されました



各県自慢の名産品等を披露する道守屋台も大盛況!
宮崎公立大学生によるフラダンスは参加者を魅了しました!



JAZZと焼酎!!
宮崎ならではのおもてなし!



大会宣言

~道守の明日に向かって~

- 今日、私たちは、この宮崎の地にて道守活動の課題と未来について率直に語り合いました。
- そこで私たちは、地域の素晴らしさをお互い再確認すること、道守内外の情報の共有と発信をすること、仲間づくりと人づくりを積極的に行うことを語り合いました。そして、まずはやれることから取り組むことを確認いたしました。
- 私たちは、災害を乗り越えて、誇りある地域づくりに向かって今日の学びを活かしながら、楽しみながら道守活動をさらに発展させることとしたいと思います。

みちづくし in みやざき 2017 大会実行委員長 根岸裕孝 (道守みやざき 代表世話人)



マイツリーのネームプレート



植樹風景

大分
大分県立
大分工業高等学校

マイツリーのネームプレートを製作させていた。今回は、3年生は卒業前の自宅学習（仮卒）期間であり、2年生は修学旅行で不在であったため、ものづくり経験が浅い1年生が主役を務めた。経験が浅い1年生で

道を通る楽しみ

私たちの道守活動

道に出て、道を見つめ、道の問題と向き合う。それは私たち自身の未来を考えること。歩いて楽しく、暮らして楽しい地域づくりのために、九州各地の道守会員が取り組むスタイルやアイデアなどさまざまな活動を紹介します。

も、文明の利器があればそれを補うことができる。本校に今年度初めて導入された「3Dプリンター」だ。PC上で任意の文字を打ち込み、専用ソフトでデータ変換し、「3Dプリンター」に流し込むだけ。細やかな調整や設定は必要だが、やりながら改善していけばよい。PC画面上的のものが現実のものとなる。実に便利なものだ。

マイツリー所有者はネームプレートにそれぞれの想いを刻む。縦70mm×横150mmのネームプレートを製作しながら人々の様々な想いに触れることができる。負担ではあったが、やりがいがあった。

それに道守大分

会議のご厚意で私たちもマイツリーを頂戴した。どのようなネームプレートにするのか、生徒らが輪になり、2〜3時間、ワイワイガヤガヤと話し合いを重ねた。その傍らで、私は彼らの動きに成長を感じることができた。「植えよう技術の種を育てよう大分のもづくりを」という言葉。高校1年生にしては上出来である。

今までは通り過ぎるだけの道。しかし、自分たちの木が植わっているというだけで、不思議なことに、そこに「愛着」が生まれ「成長ぶりはどうか」と気になり始める。別大国道が特別な場所になった瞬間である。道を通る楽しみができた。

（未来ロボット工学研究部顧問 機械科 佐藤新太郎）



別大国道のマイツリー

大分の豊かな天然自然を次の世代に

大分県では、環境保全活動を通じて地域を元気にする県民運動「おおいたうつくし作戦」を展開しています。本県の豊かな自然を表す「うみ」「つち」「くうき」「しんりん」の頭文字から取った言葉で、前身の「こみゼロおおいた作戦」をさらにステップアップさせ、豊かな天然自然を未来の子どもたちへ引き継ぐための活動を展開しています。

作戦の牽引役となる「おおいたうつくし推進隊」は百三十二団体（三月一日現在）となり、それぞれの地域において河川・海岸の清掃や花いっぱい運動など、様々な活動が行われています。

道守大分会議の皆さんにも推進隊に登録していただいております。先日（別府大分毎日マラソン前日）一斉清掃をはじめ、県内各地での活動を通じて、作戦の推進にご尽力いただいております。

この秋には、本県において国民文化祭 全国障害者芸術文化祭が開催されます。県内外からお越しになる多くのお客様を「環境視点でおもてなし」する取組を、うつくし作戦の一環として展開することとしています。会員数六十名を誇る道守大分会議の皆さんには、是非積極的なご参加をお願いいたします。

（梶原浩）



「おおいたうつくし推進隊」



県民運動「おおいたうつくし作戦」

大分

大分県生活環境部 うつくし作戦推進課



わたしの好きな道

久留米市の顔となる花と緑豊かな道

～国道209号、国道264号～

久留米市の中心部にある西鉄久留米駅から西に約二キロメートル伸びる国道209号、国道264号は、通称「明治通り」と呼ばれる久留米市の顔となる道であり、私が大切にしている道です。

市民の夏の一大イベントである水の祭典久留米まつり（毎年8月3〜5日）では、明治通りが一日歩行者天国になり、一万人のそよばん総踊りなどたくさんの方々が行われ、多くの人で賑わいます。秋には沿道に植えられたイチョウが黄金に色づき、季節のうつろいを感じさせてくれます。冬には、沿道にある久留米シティプラザを中心にイルミネーションで飾られ、幻想的な雰囲気が楽しめます。

特に私が好きな春は、街路樹として植えられている市花久留米つじに加え、周辺住民や企業の皆さんがボランティアで植えた花々が咲き乱れ、花と緑あふれる光景が楽しめます。花が植えられるようになったのは、数年前からで、年々きれいになっていくなど感じています。きっと地域の皆さんの努力の賜物でしょう。

私たち「道守くるめネットワーク」も、明治通りをきれいにしてお手伝いとして、年3回除草ボランティアを行っています。毎回100人以上が集まり、二、三時間かけて、植栽帯の草取りやゴミ拾いを行っています。真夏の作業はきついですが、作業の後にきれいになった道路をみると、疲れも吹き飛び、これからも久留米市の顔である明治通りを皆で大切にしていきたいと感じます。

近年、明治通りにも自転車道路が整備され、歩行者も自転車も安心して通行できます。また、私が日頃よく利用するバス停もきれいになり、誰でも使いやすい道路になりました。

ぜひ久留米市にお越しいただき、明治通りの魅力を感じていただければ幸いです。



プロフィール
原口 与三吉 (はらぐち・よそきち)
福岡県久留米市在住
道守くるめネットワーク代表

福岡



道守おおむたネットワーク（大牟田市）

できる人が、できることから、
できる時に、自分から

道守おおむたネットワークは、「できる人が、できることから、できる時に、自分から」を合言葉に、市内の道路を花いっぱいにする事で、市民の『おおむたの愛』を高めるための活動を行っています。大牟田市では、平成27年に三池炭鉱関連施設を含む『明治日本の産業革命遺産』が世界文化遺産に登録され、現在多くの方が見学に訪れています。そこで、大牟田市に来訪される皆様を気持ち良く迎えようとするため、平成25年度より、玄関口であるJR大牟田駅や大牟田市役所を中心とした国道208号、世界文化遺産の宮原ルート上にあるロータリーの植栽帯に花を植えたり、沿線の高校生と清掃活動を行っていきます。特に毎年11月に行っており、『おおむた花街道プロジェクト』は子供から大人まで数百名の参加があり、一大プロジェクトとして定着しております。また、事業中だった国道208号の無電柱化事業が平成29年度に完成し、町並みがきれいになったと市民の皆様も喜んでおります。これを更なる契機として、季節の花が咲き乱れる道路づくりを目指し、道守活動を継続ししっかりと継続しながら、今後活動を持続し続けていくよう組織づくりに取り組んでいます。

（代表世話人 山口時彦）



植栽帯の花植え



きれいになった町並み



第6回おおむた花街道プロジェクト

佐賀



佐賀市緑進会（佐賀市）

まちづくり、地域安全、環境保全

私たち佐賀市緑進会は、佐賀市内に本拠を置く造園工事業を営む者たちで1988年に創設した団体です。現在の会員は、23社で活動しています。

具体的な活動内容は、都市緑化月間への応援・協力、道路や公園施設等の清掃活動、緑化に関するイベント開催、土壌作り等いろいろな社会貢献活動を積極的に行っています。

佐賀市緑進会は、快適な生活環境に必要な不可欠な『緑環境づくり』を業としている団体であり、会員である経営者を初め従業員各人が高い意識を持ち、その伝統技能や専門技術知識を活かして、佐賀市民の皆様へ生活にお役に立つ活動をして行きたいと思っています。

（会長 久保和生）



桜マラソン応援清掃 クリーンアップ大作戦 in SAGA

長崎



諫早清掃愛護クラブ（諫早市）

ふるさとの道、川、海岸、港を
みんなで美しくしよう！

諫早清掃愛護クラブは、毎月第四土曜日に道路、河川、海岸、港湾を対象に清掃・美化活動を実施しており、ゴミ拾い、雑草（木）の伐採、収集したゴミの諫早市内の廃棄物処理施設への搬入を行っています。

活動区域は、『琴の湖』と愛称される大村湾の南東側奥部に位置する諫早市と大村市の沿岸域です。近年、工業団地や学校の整備、宅地化が進捗する一方、海や河川の水域環境が課題となっており、私たちの清掃作業において、道路護岸をはじめ海岸から大量の漂着ゴミが回収されることがあります。

長崎県職員を中心に団体発足し、現在十五年目を迎えますが、参加者は各自のペースで楽しく作業しています。そして、行政などが主催する関連行事への参加、ブログでの情報発信を契機に、民間企業の職員やご家族、市民の参加も増加しています。

私たちは、地域の環境保全と市民の公共施設に対する愛護意識が深まることを目標に、今後も積極的に活動を展開したいと思っています。

（世話人 村瀬弘幸）



漂着ゴミの清掃



雑草(木)の伐採



清掃後、集合写真

熊本



風の会（宇城市）

女性パワーで地域に新しい風を

「風の会」は、平成10年衰退の傾向にあった下益城郡小川町に文化ホールが完成したことをきっかけに、「文化活動で町おこし、町に文化の風を！」をキャッチフレーズに女性9名で結成されました。まず商店街の中心に位置する廃屋同然の商家を修復し、「風の館塩屋」と名付けて活動の拠点にしました。蘇った土蔵白壁造りの「塩屋」ではコンサートやギャラリ、食事や喫茶と女性の感性を生かした取り組みを行い、県内外や海外からの来客もあり、町に新しい風が吹き始めました。平成18年には、国の「男女参画推進事業」の認定を受け、様々な地域づくり活動をスタート。熊本地震では建物もスタッフも被災し、一時は再建不可能とあきらめかけましたが、女性の粘り強さでいち早く「レンコン饅頭」を販売し、地域復興の後押しをしました。平成29年、全国各地づくり協議会会長賞受賞も大きな励みになりました。現在修復中の「塩屋」では、更地が広がる商店街の再生に向け、平均年齢75歳の女性たちが、様々な取り組みに挑戦しています。

（代表 森田加代子）



「塩屋」は地域の子どもたちの活動の拠点でもあります



赤いエプロンがトレードマーク

宮崎



株式会社ホテルマリックス（宮崎市）

おもてなしの心で

私たちホテルマリックス・ホテルマリックスラグーンは国道10号線沿いにあり隣接する宮崎県立病院の樹木が借景になり、お客様にいつもの安らぎを感じていただいています。

その感謝も込めて日々歩道や近辺道路などの清掃に取り組んでおります。

国道10号線は交通量も多い為、少数のマナーの悪い方が捨てるゴミなどがあり、ときには花壇までもが灰皿・ゴミ箱代わりに使われていることもあります。

しかし清掃をすることで花壇に植えられた綺麗な花々に癒され、また地域的美観維持にも繋がっている為、地域の方よりいただくお礼の言葉が何よりも活動の励みになります。

私たちは今後お客様や地域の皆様に喜んでいただけるよう道守の活動を続けて参りたいと考えております。

（黒木雅暢）



ホテルラグーン前の花壇



花壇の清掃活動

鹿児島



湯田口20日会（薩摩川内市）

道守で故郷再発見と町おこし

地元有志とUターン組が町おこし活動しようとして6年前に湯田口20日会を結成しました。私たちの町は西郷隆盛ゆかりの川内高城温泉と、国道3号線と肥薩おれんじ鉄道の薩摩高城駅があります。中でも駅直結の薩摩高城海岸には、菅原道真公伝説に因んだ「放ちの鐘」や、「ハートロック」があり、そこへ繋がる道の整備と清掃を通じて故郷の再発見と町おこしに取り組んでいます。又、町内の県道・市道には10数年前に地区入口の道路両側に門松を設置してきた彼岸花ロードがあり、春先から2カ月毎に除草と清掃活動が続けます。秋口になると湯田口から川内高城温泉までの市道が彼岸花で彩られます。また、年末には地区入口の道路両側に門松を設置して新年を迎えます。今後予定の南九州西回り自動車道の湯田西方IC開設に伴う「道の駅」設置に期待が高まっています。今年のNHK大河ドラマ「西郷どん」にあやかり未来を見据えた町おこしと道守活動で交流人口が増え地域に賑わいが戻るように取り組んでいます。

（会長 岩元文一）



門松設置



彼岸花ロード



放ちの鐘

平成30年3月1日、ホルトホール大分（大分市）において、『第3回 語ろうみんなで！ティーパーティー「三つの輪」』が開催されました。

当日の参加者は約90名。平日開催に加え、年度末のお忙しい中、大分県下で精鋭な活動をしていく方々、遠く福岡や宮崎、および本シンポジウムに関心をお持ちの一般の方々と共に参加いただき、大盛況に終わりました。

道の駅×日本風景街道×道守シンポジウム

語ろうみんなで！「三つの輪」

道守大分会議事務局 木ノ下 結理

プログラムは2部構成で、第1部は石田東生教授（筑波大学名誉教授）による基調講演、大分県内の観光に携わっている桑野和泉氏（道守大分会議代表世話

人）、橋本正恵氏（日豊海岸シーニック・バイウエイ会長）のお二方から由布院、蒲江の取り組みをご紹介していただきました。

第2部では、パネリストにこれから取り組むべき連携や地方創生、観光への寄与などござくばらんに語っていただきました。

以下、当日のプログラムに沿って概略を紹介します。

シンポジウム冒頭、開催委員長である菊川邦弘委員長（大分銀行常務取締役）の主催者挨拶があった後、『第1部』の基調講演では、石田東生教授に「本気の地方創生・地域づくり、シーニックバイウエイ、道の駅」というテーマで講演をしていただきました。

「超高齢化・地域が壊死・劣化する」と予測されている日本では、これから苦しい時代を迎えていくかもしれないが、観光・地域づくりなどどう考えていくのか、地方創生の最大の課題となる。自身、道路が専門なので、社会資本にどうかかわっていくかを考えることが多いが、3者連携を進めるにあたり、道守や風景街道の活動のメインエンジンとして道の駅を拠点と利用するべきだし、『地域をよくしたい』『ファンになつてほしい』『次世代に引き継ぎたい』『ファンになつてほしい』など目的はみな同じだと思う。こういう場で考えて、アイデアを交換するところから始めていかなければならない。この大分の地で『三つの輪』の運動を始めてくださったこ

とは、非常にありがたい」



日本大学特任教授・筑波大学名誉教授
(一財)日本みち研究所 理事長
石田 東生 氏

続いて、桑野和泉氏から、「これから道の駅と由布院の観光事情」についての報告がありました。



道守大分会議 代表世話人
由布院温泉観光協会 会長
桑野 和泉 氏

「由布院は、ここ数年インバウンドのお客様がたくさん来ているが、地震の

影響があった（平成28年）頃、特に日本人のお客様が少なくなった。今までの情報の蓄積があったからこそ来てくれていたと感じた。これからはもっと風景街道や道の駅と最新情報を共有・発信し、来られた方の滞在時間が長くなるように大分県全体が魅力ある場所になるよう努力したい」と語りました。

橋本正恵氏からは、「インバウンドのお客様は蒲江にも来るようになった。外国人が一番感動してくれたのは、家にある水屋の棚。きちんと陳列した茶碗を見て感動していた。他者を受け入れるということは着飾ることではなく素を見せることと気づいた。蒲江は、海や人などネタには尽きないのでたくさん仕掛けて観光客をこれからも驚かせたい！」と前向きなお話をいただきました。



日豊海岸シーニック・バイウエイ会長
佐伯市観光協会 会長
橋本 正恵 氏

続く第2部では、道の駅・風景街道・道守の3名から、各活動での事例報告があり、その後、コーディネーターの石田東生教授も交えてパネルディスカッションが開かれました。

一人目の報告者である加藤千明氏（別府湾岸・国東半島海への道事務局

長）からは、「世間遺産を通じた地域の見せ方」の報告があり、「地方都市は、大都市を真似するのではなく今のまま住んでいる地域のいいところを知り、力いっぱい生きていくべき」と話しました。

二人目の報告者・亀野辰三氏（道守大分会議 副代表世話人）からは、「道守の現状とこれから」と題する報告において、資金面や会員増員についての取り組み、その効果として企業を巻き込んだ大分らしい方法で新たな道守組織の骨組みを形成している報告をいただきました。

三人目の報告者である後藤節子氏（道の駅みえ駅長）からは、大学連携（連携企画型）、震災・災害被災者支援活動、生産者との関わりなど、道の駅を運営する上でのご苦労話や新商品の秘話など私たちの知らない道の駅の裏側を伺うことができました。

その後、オープンディスカッションでは、3者連携の意義について、フロアからの意見も交えた活発な意見交換



道の駅みえ駅長
後藤 節子 氏



道守大分会議 副代表世話人
亀野 辰三 氏



別府湾岸・国東半島
海への道事務局長
加藤 千明 氏



道の駅みえ駅長
後藤 節子 氏



道守大分会議 副代表世話人
亀野 辰三 氏



別府湾岸・国東半島
海への道事務局長
加藤 千明 氏

が行われました。ディスカッションの終わりに、石田教授から『大分の元気の素は、人との繋がり・愛情だと分かっています。東京でも発信していきたいと思えます』と総括のコメントがありました。

最後に、道の駅、風景街道、道守、3者の各代表が登場しこのシンポジウムの成果として『三つの輪 決意表明』を読み上げ、これからの3者連携に向けて第一歩を踏み出しました。

参加者全員で記念写真!!!

2018 おおいた「三つの輪」宣言

私たち「大分県道守協会」「道守大分会議」「日本風景街道大分県内ルート」の3つの輪は「道」を軸としてそれぞれの特性を最大限に生かし、繋がり、連携、ゆるやかな活動により、情報共有し、知識を共有し、地域創生の推進に、変革と挑戦を促し、大分の発展に貢献することをここに宣言いたします。

「道守大分会議」代表世話人 桑野和泉氏

2018年3月1日

大分県「道の駅」協議会 会長 佐藤 隆雄
道守大分会議 代表世話人 桑野 和泉
日本風景街道 大分県内ルート
大分県「道の駅」協議会 会長 佐藤 隆雄
道守大分会議 代表世話人 桑野 和泉
日本風景街道 大分県内ルート

未来に向けた
「三つの輪」決意表明

道の駅、日本風景街道3ルート、道守大分会議の各代表が宣言を読み上げました。

語ろうみんなで！
三つの輪

観光業、文化人、大学教授、経済界、防災エキスパート、道の駅駅長、老人会・自治会、建築家・デザイナーなど大分の各地域で、様々な活動牽引する強者が集結しました!!

①道の駅「芦北でこぽん」を拠点とした実証実験

集約しつつある。

中山間地域では高齢化が進行しており、日常生活における人流・物流の確保が喫緊の課題となっており、一方、「道の駅」の約8割が中山間地域に設置されており、物販をはじめ診療所や行政窓口など、生活に必要なサービスも



▲実験ルート



▲農作物の出荷

▲病院停留所での乗降

転に必要となる道路の管理水準の検討を行うと共に、②運転手不在に対する心理的影響などの社会受容性、③集落と道の駅の間の配送実験や高齢者等の外出を促す実験などを通じて地域への効果などを検証していきます。

② みやま市役所山川支所を拠点とした実証実験

ビジネスモデルを検討するための「公募型」に福岡県みやま市が応募し、①地元エネルギー会社の余剰電力を活用しながら、自動運転で地域内の生活の足や物流を確保、②既に地域で生活支援用のタブレット端末等のプラットフォームが整備されている点などが評価され、選定されたものです。実証実験は「みやま市役所山川支所」を拠点として佐



▲タブレットによるデマンド予約



▲児童の通学手段の支援

車両は、道の駅「芦北でこぼん」と同じヤマハ発動機株式会社のものを使用しました。

実験期間中、地域の皆様など約200名の方々に参加頂き、道の駅「芦

これは、ETC2・0搭載車を対象に、高速道路を降りて「道の駅」に寄り後、1時間以内に再進入した場合には、降りずに利用した料金のままとするものです。

九州では、道の駅「彼岸の荘」（長崎県東彼杵町）と道の駅「えびの」（宮崎県えびの市）の2箇所を対象に3月24日より実証実験を開始しています。





ロサンゼルス、パリの道

きつて撮影することがよくある。日本ではどうか。なかなか難しそうだ。映画に限らない。たとえばマラソン。福岡マラソンでは、トップランナーが走り抜ける短時間だけ道路を遮断する。しかし、あつというまに規制は解除されて通常にもどる。マラソンのためには、ほんの数十分あけるくらいなのだ。だから「市民マラソン」が大きなイベントになりにくい。道路を使った市民イベントは、道路管理者や警察にとって「迷惑」な存在なのだろうか。アメリカだったらどうか。毎年の



ボストン・マラソン、市民が一日中、道にあふれる

ボストン・マラソンでは市内の中心部の道路を、一日中閉鎖して、市民ランナーに開放する。市民は朝から晩まで、ゆつくりと道路を走って楽しむ。市民の税金で成りたつ公共道路である以上、それが当然だというコンセンサスがあるようだ。道路はクルマだけのものではない。市民のための公共空間だという感覚が、役所にも警察にも強く染み込んでいるようなのだ。これこそ「道」の精神だろう。日本でも道路建設を正当化する理由としてクルマや経済（だけ）を優先するのではもう限界だ。もっと市民のために転換していく必要がある。最近、ヨーロッパ



パリを自転車で行く



パリでヴェリブにのる



町中いたるところにヴェリブ・ステーションがある

パの都市部では自治体が積極的に自転車利用に乗り出している。有名なのはパリ市内のヴェリブ（Velib'）。これが街の中心部いたるところにある。短距離の移動にはきわめて便利。30分以内の利用なら無料。実際に使って走ってみたがこれほど便利なものはない。ところが日本の自治体の自転車振興はどれも失敗してきたのではない。利用しにくい場所にあつて利用者ではなく管理者の都合で運営されている。ヨーロッパの都市は都心へのクルマの進入を制限し、かわりに自転車システムを整備しようとしている。その本気度が、パリ市内を走ってみると実感できる。



プロフィール

安立 清史

九州大学大学院人間環境学
研究科・教授、NPO法人はか
た夢協会の副理事長、一
般社団法人福岡ユネスコ協
会理事など。

道守 人物伝

「大きな夢へのちいさな二歩
美しい町は多久市から」

を台言葉に掃除と花植え活動

多久市そうじの会 会長 山崎昌治さん（77歳）

平成九年十月「日本を美しくする会」相談役 鍵山秀三郎氏の考え方に賛同する仲間五十人で、「多久市そうじの会」を立ち上げました。



「大きな夢へのちいさな二歩、美しい町は多久市から」を台言葉に毎月第三日曜を掃除の日と定めて多久市内一円を清掃と年二回市役所前及び多久インター前の花植え活動を行っています。暴風雨のため一回だけ中止したものの、百回記念掃除大会・二百回記念掃除大会を経て、現在243回を迎えました。

また、平成十四年に国交省とのVSP提携、平成十六年に道守佐賀会議（平成二十一年から七年は代表世話人）へ加入し、県内多くのボランティアさんと出会い、多久市内のみならず県内各地でボランティア活動を実施しています。



設立二十年を経過した現在は、メンバーに愛着が少なくない分、若い世代の仲間を増員できないでいるのが悩みの種です。この課題とともに、大きな夢へのちいさな二歩ではあります。多久市を美しい町に、また、県内各地を美しい町にと今後も活動が続けたいと思っています。

横顔

●地域道路調整官

甲斐浩己氏



甲斐浩己地域道路調整官は、本年4月より道路管理課長から現職に就任。宮崎県出身。昨年に引き続き、道守を担当させて頂くことになりました。これまで以上に皆様との出会いを大事にし、協働・連携を強化していきたいです」と語られています。

●道路管理課長

田口敬二氏



田口敬二道路管理課長は、本年4月より大分河川国道事務所副所長から現職に就任。大分県日出町出身。趣味は山登りとのこと。日々活動されている道守の皆様を、地道に支えていきたいと思っています」と意欲的です。

道守たちのトピックス

■日本風景街道九州ルート
〜「九州風景街道マイスター」決定〜

平成30年3月13日に開催された九州風景街道推進会議において、左記の方々が「九州風景街道マイスター」に認定されました。

九州風景街道マイスター

- 長濱 保廣氏「活動ルート：日南海岸きらめきライン」
- 坂本 道徳氏「活動ルート：ながさきサンセットロード」
- 森田 郁生氏「活動ルート：豊の国歴史ロマン街道」
- 家水 重信氏「活動ルート：みどりの里・耳納風景街道」

◎九州風景街道マイスターとは

日本風景街道の活動の普及、活動の活性化などを目的に、多年の経験と卓越した活動技能を有し、活動技術伝承の指導者などを認定する制度を平成25年度に創設。

道守通信 編集後記

○冬の厳しさから一転、夏を思わせるような季節となり、つづじ、桜が一気に満開。チュウリツやパンジーなどは色鮮やかに咲き誇り、新緑と共に道守さんが手入れしている道や街中が彩り華やかな春でした。道守通信番号をお届けします。

○「自転車が創る新たな道路整備について」は道の駅を担当している道路公共交通対策課からの話題提供です。

今、海外みち事情を執筆いただいた九州大学の安立教授からパリのレンタサイクルの紹介があり、とてもタイミングよかったと思います。パリに行かれる機会があれば利用されている方が多いのか。また、サイクルツーリズムを目指す地域は「ヴェリブ」を参考にしてください。

○今年のみちづくしは、佐賀で「楽しむ」をテーマに10月5日と6日に開催されます。昨年の宮崎では「道育」がテーマで、大盛況に集ことができた、ありがとうございます。そしてご苦勞様でした。佐賀で様々な意見交換ができるのが楽しみです。

○今年も「Me-pou」から暖かいご支援をいただきました。道守活動の一助とさせていただきます。ありがとうございました。

～道守を支援いただいている賛助会員の皆様(団体・企業)～

※順不同

(一社)九州地域づくり協会	九州国道協会	九州電力(株)
(一社)プレストレストコンクリート建設業協会 九州支部	(一社)日本道路建設業協会 九州支部	福岡市道路利用者会議
(一社)福岡県建設業協会	福岡県道路協会	(株)大林組 九州支店
(一社)佐賀県建設業協会	佐賀県道路愛護協会	鹿島建設(株) 九州支店
(一社)長崎県建設業協会	長崎県道路協会	建設サービス(株)
(一社)熊本県建設業協会	熊本県道路利用者協会	清水建設(株) 九州支店
(一社)大分県建設業協会	大分県土木建築協会	大成建設(株) 九州支店
(一社)宮崎県建設業協会	宮崎県道路利用者協議会	長幸建設(株)
(一社)鹿児島県建設業協会	鹿児島県道路利用者協議会	(株)高山組
九州技術支援協議会	(株)熊谷組 九州支店	みちを考える会
	朝日開発コンサルタンツ(株)	朝日工業(株)
(株)アジア技術コンサルタンツ	(株)アップス	(株)安部日鋼工業 九州支店
(株)安藤・間 九州支店	烏城塗装工業(株)	(株)エスイー 九州支店
NTTインフラネット(株) 福岡支店	NTTインフラネット(株) 熊本支店	NTTインフラネット(株) 鹿児島支店
扇精光コンサルタンツ(株)	大分県建設業協会 大分支部	大分県道路舗装協会
大分瓦斯(株)	大分交通(株)	(株)大島造船所 九州営業所
(株)荻島組	(株)オリエンタルコンサルタンツ 九州支店	鹿児島土木設計(株)
上内電気(株)	(株)カンドー 九州支店	川田建設(株) 九州支店
九建設(株)	(株)九州開発エンジニアリング	九州建設コンサルタント(株)
九州地区道路利用者会議	九州みちの会	協同エンジニアリング(株)
(株)橋梁コンサルタント 西日本支社	(株)建設環境研究所 九州支社	(株)建設技術研究所 九州支社
(株)建設技術コンサルタンツ	(株)建設技術センター	(一社)建設コンサルタンツ協会 九州支部
コーアツ工業(株)	(株)国土開発コンサルタント	(株)駒井ハルテック 九州営業所
(株)西海建設	(株)サタコンサルタンツ	三州技術コンサルタント(株)
昭和コンクリート工業(株) 九州支店	新成建設(株)	新日本技研(株) 福岡支店
(株)新日本技術コンサルタント	(株)末宗組	(株)西部技建コンサルタント
(株)センコー企画	(株)総合技術コンサルタント 九州支店	そうじの会(多久の未来を創る会)
農事組合法人そよかぜ館(「道の駅大和」)	大日本コンサルタント(株) 九州支社	大福コンサルタント(株)
太陽技術コンサルタント(株)	瀧上工業(株)	宅島建設(株)
谷川建設工業(株)	(株)玉の湯	(株)地域科学研究所
中央コンサルタンツ(株) 福岡支店	中央復建コンサルタンツ(株)	(株)長大 福岡支社
通信土木コンサルタント(株) 九州支店	(株)東亜コンサルタント	東急建設(株) 九州支店
(株)東京建設コンサルタント 九州支社	利光建設工業(株)	戸田建設(株) 九州支店
(株)友岡組	(株)友岡建設	(株)名村造船所 福岡営業所
南生建設(株)	西日本建技(株)	西日本技術開発(株)
西日本コンサルタント(株)	西日本コトラクト(株)	(株)日建コンサルタント
日新興業(株)	日鉄鉦コンサルタント(株) 福岡支店	日本地研(株)
(一財)日本造園修景協会 大分県支部	(株)野村建設	葉隠会道守部会
(株)萩原技研	範多機械(株) 福岡営業所	パシフィックコンサルタンツ(株) 九州支社
(株)ピーエス三菱	(株)日高時計本店	(株)福山コンサルタント
(株)富士設計	(株)富士ピー・エス	(株)ぶぜん街づくり会社(「道の駅」豊前おこしかけ)
復建調査設計(株) 九州支社	前田建設工業(株) 九州支店	松尾建設(株)
松本技術コンサルタント(株)	(株)丸福建設	(株)水野建設コンサルタント
有限会社 道の駅みえ	宮崎空港ビル(株)	(株)宮崎産業開発
宮地エンジニアリング(株) 福岡営業所	八千代エンジニアリング(株) 九州支店	(株)ヤマウ
(株)ヤマックス	龍南建設(株)	(株)ワンステップ
個人会員70名		



発行 「道守九州会議」

広報誌「道守通信」春号
平成30年5月●日発行

「道守九州会議」事務局

■道守支援室(九州地方整備局道路管理課内)

〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2丁目10番7号
TEL.092-471-6331(代) FAX.092-476-3481

■(一社)九州建設技術管理協会内

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号
TEL.092-471-0189 FAX.092-414-0767

道守HP <http://www.qsr.mlit.go.jp/n-michi/michimori/>

e-mail michimori@qsr.mlit.go.jp